

## まちづくり懇談会 串原

日時：平成 30 年 10 月 23 日（火）午後 7 時～8 時半

場所：串原コミュニティセンター

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 串原のまちづくりについて簡単に説明する。

串原地域計画。現在恵那市では第 2 次総合計画とって平成 28 年から 37 年の 10 カ年計画で本年度 3 年目の事業を実施している。この計画に合わせて 13 地域でそれぞれ地域計画を策定して頂き、計画に基づいてまちづくりを行って頂いている。この地域計画は平成 27 年度に策定頂いている。計画の柱は串原では 3 つある。

1、今ある自然を資源として活かそう。2、響け！伝統文化と学びで繋がる串原。3、世代交代と耐える力。

事業を実施して頂くに当たり、市から補助金を交付している。本年度、串原では 7 つの事業を申請して頂き、186 万 4 千円の補助金を交付している。その他、自治区の運営経費として、特に使途目的がないお金、交付金と呼ぶものがあり、13 地域ほぼ均等割で交付している。串原は 130 万円で、補助金と交付金を合わせて 316 万 4 千円で事業を実施して頂いている。

計画の柱に沿って事業内容を説明する。本来地域自治区からご説明頂ければ細かく説明頂けるが、時間の都合上、私から端折って説明する。澤田会長から補足があれば後で行って頂ければと思う。

ささゆりの里づくり。計画の柱 1。実施団体はささゆりの里づくり実行委員会。事業の目的は交流人口の増加と地域の活性化を図る。事業内容はささゆりの湯周辺が地域活性の拠点となるようイベントを開催。

大野公園周辺における観光資源整備。計画の柱 1。実施団体は N P O 奥矢作森林塾。景観づくりのための自然環境整備を目的に、大野公園周辺の自然環境整備、案内看板、及び木製ベンチの設置。

さんさん街道整備。計画の柱 1。実施団体は自治連合会。事業内容は自治会活動として、道路環境作業を実施して共同作業を行うことによって地域のコミュニティーの醸成を図る。

移住定住推進。計画の柱 1、2。実施団体は奥矢作移住定住推進協議会。目的は都市と農村の交流拡大。移住定住については奥矢作森林塾が色々な活動をしてみえる中で、串原の移住者の数、平成 21 年から平成 30 年、10 カ年間において、61 人の串原への移住者が

あったということと、空き家をそういった活動の中、10年間で36戸が6戸になったということで、空き家も激減したということで、恵那市内においてもこういった先進的な取り組みを行っているところは他にはない。どこの地域も串原を見習ってぜひ移住定住を進めようと今頑張っている。

奥矢作森林塾。計画の柱1・2。設立は平成18年4月、職員数5名。リフォーム塾、今年第10弾ということで終了しているようだ。今年述べ参加人数54名。今年の2月にこういった活動がふるさとづくりで総務大臣賞を受賞した。

奥矢作森林フェスティバル。計画の柱1・2。主催はこちらの地域ではないが、共催として奥矢作森林塾が参加していて、毎年実施されているようだが、今年は6月24日で、来場者も千人あったという。

伝統芸能の後継者育成。計画の柱2。実施団体は串原歌舞伎保存会と中山太鼓保存会。目的は伝統芸能の保全伝承と後継者育成。小学校5、6年生の歌舞伎の稽古と公演。中学生による中山太鼓の練習と発表が毎年行われている。

布ぞうり。計画の柱2。ささゆりの里布ぞうり研究会。発足は平成18年、会員8名。昨年は布ぞうり教室としてマレットハウスで35回、出張教室として21回、こういった活動を実施しており、本年度も全国布ぞうりコンテスト、平成18年度から実施しているようだが、現在展示期間で今月末までで応募作品は186、99人から応募があった。

へぼ文化の保存・伝承。計画の柱2・3。実施団体はへぼ祭り実行委員会。事業目的はへぼ文化を次世代につなぐ。今年は11月3日に開催される。

花かざり。計画の柱3。実施団体は自治連合会。目的は世代間交流による花壇整備。絆花壇の手入れを毎年夏、秋、6月と11月に実施している。

くしはら資源の活用。計画の柱3。実施団体はチームささゆり。食材を資源とした地域の活性化を図ることを目的に、安くて人気のある料理の研究や、串原の食材を活用した料理のレシピを作成。へぼせんべいとトマトジュース。

クラウド・ファンディング。計画の柱3。実施団体はチームささゆり。目的は天空の露天風呂ささゆりの湯を新名物で復活されたい。目標金額180万円でクラウド・ファンディングで募集したところ、達成金額として310万円、157名から協力を頂いたということ。オープンデッキの設置、看板設置といったハード整備に充てたということ。その他、商品開発等の事業にも活用して、事業展開を実施している。

串原地域計画のキャッチフレーズ。「自然と文化を育む笑顔あふれる交流のまち」。こういったところを目指して、澤田会長の下、地域づくりに取り組んで頂きたい。

#### ■市長 串原の状況と事業等について。

串原の人口は、17年971人で、最新データでは798人。減っているが、世帯は若干増

えている。減る率は少し緩和されているという印象がある。17年を100としたとき、恵那市の全体では-10.9%だが、串原は-17.8%。一時増えているときもあるし、下る角度は少し緩くなっている。人口が減ったときに皆さんがずいぶん頑張られた結果だと思う。

生まれる子ども。出生数は何年かに1度7人ぐらいの子どもが生まれるが、それ以外のときは5人とか4人。子どもの数は平成22年に、串原で生まれたのは4人だが、今いるのは9人。移住されたり、アパートで暮らしていたけど戻ってきた人。これが大事だと思う。平成27年、7人生まれたが2人転出した。現状5人しかいない。なるべくこの場所で生まれれば一番良いし、移住定住や、自分の子ども、孫が他の地域から戻ってくるような取り組みもすることで、子どもの数を入学までにはずいぶん増やすことが出来るので、こういったところも少し考えて頂くと良い。生まれた子の数をグラフにすると、増えたり減ったりしている。

小学校と中学校の数。串原小学校は現状30人の児童。1年生の子が6年生になる5年後、平成35年度は29人。中学校は13人が現状だが、平成35年には19人に増える。ただ、これで良いということではなく、将来的に少し減ってくるので、色々な対策を地域ごとに気にして頂きたい。

事業。大竹松本線道路改良。平成30年は1工区、法面改良、工事延長46mをすでに発注している。用地買収も一部、立木補償、用地も今行っている。

県単の林道金吾里線改良工事。県道から上がっていくところを平成30年度は89mで500万円。すでに工事がスタートしている。

県道下明智線大洞地区の改良。丈量測量が今年度すでにスタートしている。事業費は700万円ぐらいの予定だと聞いている。

矢作ダム再生。放流能力を1,300 m<sup>3</sup>から2,500 m<sup>3</sup>に上げるために、放流設備の増設を計画。これはダム再生としては国の事業として採択され、平成30年度は今計画の調査ということだが、これから環境調査を含めて手順を踏んで行っていくと聞いている。全体の事業費460億円ぐらいの大きな事業。政治的に言うと、古屋先生はこれを何とか岐阜県側で行ってほしいと、東京でずいぶん活動されている。串原に協力頂くことになるかなと思っている。

災害復旧。先ほど堀議員からも話があった。台風7号。7月の豪雨で46号線が崩れた。24m、1800万円をすでに発注している。9月の台風21号で、串原1号線。10m。これから発注する。ご協力をお願いします。この地域、オートキャンプ場は、電源の入った区画も含めてリニューアルをした。トイレの洋式化、炊事場の整備を行った。全体としては年間4,300人ぐらいに昨年は利用頂いた。今年は今のところ12%アップぐらい。利用者数としては10%だが、料金も上がっているので、収益的にはもう少し良くなっていると聞いている。

串原温泉ささゆりの湯。今年の4月にリニューアルオープンした。露天風呂、飲食、休憩スペース、色々なところを改修し、平成30年度の入館者数は、この9月までで5万7千人。上半期は5万人を上回っている。年間で10万人が1つの目標だと思うので、何とか下半期頑張ってもらって、私どもも出来るところを一生懸命ピーアールする。引き続き皆様にもご利用、ピーアールをお願いしたい。

買い物支援。平成25年からスタートしたくるくるまめショップという移動販売。恵南商工会からの店が行っている。若干利用者が減っている。もし改善するような案内があれば、ぜひご意見を聞かせて頂き、活用頂きたい。

魅力。ふるさと教育。先日は中山神社の例大祭で副市長に参加して頂いた。大変すばらしいお祭りで、私も昨年参加した。滝や桜、自然の環境も大変豊かなところなので、何とか引き続き盛り上げていきたいと考えている。

## 5. 意見交換

■市民1 仕事柄色々な町を毎週のように歩いている。恵那から来たと言うと、市長が若いと言われる。「市長は若くて一生懸命やっていて地域住民も評判が高い」と言ったら、「俺のところも若い衆に替えないといけない」という話が良く出る。すごく嬉しい。

私は公の場と地域住民の意見をいくつか聞いてきた。台風21号のときに、停電し、自家発電機がないため、振興事務所の業務が出来ないという前代未聞の状態があった。聞けば、事務所移転のとき要望があったのに却下されたという。自家発電機が問題だということで、それを強く要望する話がでている。事務が出来ないから近隣の町に出向けというのでは生活弱者にとって問題がある。振興事務局及びコミュニティセンターは避難所でもあるので、避難所でクーラーはおろか扇風機も使えず熱中症になってはしゃれにもならないし、冬場の災害の場合は暖房もなくなってしまうので、一刻も早く自家発電機の予算を付けてほしいと、住民及び公の会議の場から出た。税率が下がったとは思いますが、もし許されるなら、住民がふるさとを思いながら出ていかれた矢作ダムの税金の一部を還元したら、それぐらいのものは備えられるのではというのが住民の意見だ。

いずれにしろ、今回のことで、串原村時代の方が良かったじゃないかという声が出たものだから、そういうことのないようにお願いしたい。

次にもう一つ、これはかなり多く出た。防災訓練に出られた人が口を揃えて言ったこととして、外に出てきた人は良いが、家で寝込んでいる動けない人を災害時にどう助けるのか。その訓練がこれから大変になってくる。東海地方も近いうちに大地震が来ると言われて久しいので、日頃からそのあたりを考えた防災訓練が、これからは大切だということが出た。女性から特に多く出た。

あとは、災害用語の件。高齢者に分かりやすいように、避難準備、避難指示などがどう

いう意味か、災害で荒れている最中の移動は危険ですと書いたような貼る紙を配ったらどうか。これは各振興事務所でやっても良いが、特に年寄りに分かりやすく大きな字のものを壁に貼れるようにしたらどうかという提案が出た。これは簡単に出来ると思う。

近隣の岩村町では、太陽光設置反対署名で5千名とも言われる結構な数が集まったと聞いている。この地でもテラピアというタイミみたいな魚をタイヤで養殖するという業者が来たが、それが逃げてしまった。今日来ている人の中にもいるが、ボランティアでそれを片付けた。そんなとんでもない話があった。太陽光の場合は、素人のかまえるものではないので、もし発電していたら事故死につながる大きな問題だ。テラピアのときは山が枯れて悪臭を放つてとんでもなかった。太陽光はもっと危険だ。危険な地域でも条例では設置出来るとしているが、条例は変えることも出来るので、後に大変なことにならないように、締め付けを厳しくしてほしい。

当地に移住者が多く、私個人としても大変有り難いと思っている。ただ、この人たちがやがて車に乗れなくなる時期が来る。この地域から出ていった人たちがなぜ戻ってこないかという意見が議会報告会でも出た。半分は私も分かる。ここで生まれ育って、生活しづらい部分、やがて動けなくなったときに買い物、病院、どうやって行くのかという話がある。出ていった若い人たちはその辺は承知だ。それと、奥さんはこの土地について何の興味もないし思い入れもない。その部分があるからなかなか戻って来られない。じゃあ今移住して来た方々がやがて車に乗れなくなったときにどうするか。そこまで長いスタンスで考えて頂かないと、本当の移住政策とは言えないと思う。せつかく来られた人がやっぱり住みやすい町になるように、これからも一層の交通、公共機関の充実、道路の拡張などを強く要望する意見も聞いている。

■司会 今年は中山神社も大変な被害を受け、災害被害などは年々ひどくなっている。

■市長 停電について。この地域はかなり長かった。冷蔵庫の中のものが溶けたという話もあった。振興事務所そのものが機能しなくなったということも伺っている。これについてはもう一度ちゃんと考えようということは私も思っている。振興事務所が機能しないぐらいならまだ良いかもしれない。たとえば病院で点滴や生命維持装置にかかわるものが停電で動かなくなるケースがある。そういったところは自家発電機を持って行って動かしたりもした。基本的には自家発電機で動かして頂くのが良いが、特にキーになる振興事務所のようなところは、少し大型で定置型のちゃんとしたものを置くのも手なので、なるべく実現出来るように考えたい。

防災訓練の中で、寝ている方を含めてどう考えていくかということになる。防災訓練は恵那市全体では参加率が46%ぐらいで、他市に比べて圧倒的に高い。防災意識も、私の印象だが、他市よりもはるかに高い。寝たきりなど弱者、外国人を含む日本語が理解出来ない人、それ以外の小さな子どもなど、色々な人がいるので、そういうケースに合わせて

これからは対応を細かく考えていく必要がある。防災会議の中でも色々出ている。ペットを連れて人はどうしたら良いかとか、寝たきりの人をどうするかとか。少しずつ前に進めたい。

言葉が分かりにくいというのは僕もそう思っている。避難準備情報、高齢者なんとかとか非常に分かりにくい。避難所は開いているが本当に行かなければいけないのかどうかも分からないし、恵那市中に避難情報を出すけどほとんど移動してくれる人がいないという状況だ。広報でも前回流したが、改めて方法を考える。冷蔵庫の前に貼って頂けるようなものを考える。

太陽光は特に岩村からの声が一番強く、何とか規制をとということで、弁護士も入れて検討委員会を設けた。その中で、市として出来ることをどこまで行おうかということを検討し条例を定めた。ただし、この先実際にそこで暮らす人で困っている人にどういう手当てが出来るかはまた別の話だ。地域の皆さんでより一層、手をつないで出来ることがあると思う。後ほど副市長から話す。

高齢になって車がなくなったらどう移動するか、この地域の存在をどう残していくかということだと思う。この件はおっしゃるとおりだと思う。まずは道路だと思う。二車線の道がないということで、特に豊田明智線の改良は一刻も早くやって頂くべきだと思っている。それ以外に、公共交通として最後まで守らないといけない足として、これも確保しないといけないと思っている。片方では、バスは空気を運んでいて無駄なお金だと言われるケースもある。出来る限り、私としては地域の足は存続すべきだと思っている。なんとか出来る限りのことは行う。出来れば皆様方から色々なご意見を頂いて、少しでも利用して頂く方策を考えて頂きたいということと、出来れば使ってほしいということも重ねてお願いする。引き続き、地域ごとに事情を伺いながら進める。

■副市長 テラピアの話は、明智町の役場の時代に私が担当していた。産業廃棄物を持ってきて燃やして、それでテラピアという魚を育て市場に出すという計画で、明智町の役場は許可した。しかし実際には産業廃棄物を燃やしたところ、シアンが出て山の木が枯れたということがあった。そのときに会社に対抗して事業の廃止に持ち込んだが、その後に産業廃棄物が野積みされて、タイヤもたくさん残ってしまったので、これを合併前に負の遺産としては恵那市に持っていけないので撤去しようということになって、串原の皆さんにもお願いして撤去した。

太陽光の条例は、県下でも、出来る限りの規制が出来るような形で、規制の基準が県下では非常に厳しい条例を作った。ただ、規制しきれない部分もある。たとえば危険ゾーンなどは絶対やらせないが、大規模なものが出来てくる可能性があるので、この辺は地域の皆さんと市役所も一緒になってまた考えるので、出てきた段階でまたお話ししたい。住民もイエス・ノーはしっかり意思表示をすることが大事だ。岩村、明智で同じようなことが

地域懇談会で出ている。条例の運用はこれからだ。

■市民 2 3つ質問する。今、人口減少対策をやっている。空き家が本当に少なくなった。私たちが紹介している空き家は2軒だけだ。あとは相続がしてないとか色々なことで問題のある空き家だ。それに対して、大野地区に5軒ほど別荘のようなところがある。串原へ来たいという人はまだまだたくさんいるが、住むところがないということで、大野の別荘を販売または、別荘としてでなく住めるような形に変更することは出来ないか。

もう一つは、以前は活性化協力隊ということで、各事業所に協力隊員を市から回して頂いた。彼女らが非常に活躍して、串原も移住定住が進んだ。今の協力隊は、市の管轄というか、振興事務所管轄で、市の職員の補助のような形で動いている。僕が考える中ではあまり効果が出ていない。以前のような協力隊の派遣をしてもらえないか。

もう一つは、今豚コレラが非常に問題になっている。これから猟期に入って、イノシシやシカの捕獲が多くなる。これについて、恵那市は安全なのか、それを捕った場合に検査をいちいちしないといけないか、どのぐらい豚コレラが蔓延しているか、詳しく教えてほしい。

■市長 私も職員だった頃に大島さんにはずいぶんお世話になった。ありがとうございます。その頃に活性化協力隊はNPOの方でお世話になっていたということだが、今は市で推進員の形で市に籍を置いている。もっと十分に力を発揮してほしいということだと思いますので、持ち帰り検討する。他の地域の案件も踏まえて検討する。

■副市長 大野の別荘は、元々串原村で造って年間40万で貸し出しているもの。串原の皆さんがこれを売り払うという話なら、市としても考える。市としては公有財産でどうしても持っていなければならないわけではない。ただ、別荘を建てた際の補助金をもらった経緯と期間の問題があるので、売り払えるかどうか一度確認する。出来るようならぜひそういうことも考える。

豚コレラはエリアが指定されている。岐阜県の中で、岐阜市の近くの何km以内が発生源からの距離ということになっている。いくつかの町で今回の狩猟をしないということになっているが、こちらでは出来ると思っている。笑い話のようなことだが、飯地町でイノシシが排水路で死んでいて、警察が県庁に電話したら、また混乱させるつもりかと叱られたぐらいだ。こちらは大丈夫だ。

■市民 3 母が今施設に入っているので、離職してこちらに今年の1月から住んでいる。何十年ぶりかで帰ってきて住んでみて、台風が何件か来て思ったことがある。へぼを今年からやるようになって、行ってみると山がすごく荒れている。私は伊勢湾台風を経験しているが、そんなのが来て、木が倒れて土砂が溜まり、土石流が発生しようものなら岩倉は

存在しないと私は思う。その辺のことと、終戦直後一生懸命植えたのが二束三文で、金を出さないともう伐ってくれない状況なので、これは国に言わないといけないと思うが、こういうことがこれからどうなるのか。

それから砂防ダムを一生懸命造ったが埋まってしまっている。そういうものを掘り起こしてもう一度やるとか、何かしないと、安心して住めない。私はUターンしようかと今考えているが、安心出来ない。

それから、私は安城市に戸籍が今あるが、安城市は人口が増えている。「全国の市長会に行くと、人口が減っているというところばかりだけど、わしはそんな意味が分からない」と市長が言っている。財政も豊かだ。それに比べると、ここは本当に大変だと思う。土砂災害とか。でもそういった災害対策は絶対やらなければいけないことなので、法面とか道のところは絶対予算を確保して頂きたい。財政ひっ迫は分かる。だけど、国に言うなり何とかしないとイケないような大きな問題だ。私が住んでいるところが存在するかどうかということにもかかわってくる。そういうところがどうなっているか。

私は安城に住んでいて、安城市は商工課が中小企業を支援するために、企業を定年退職した人に財務の関係、自立支援みたいなことをやってもらっている。東海理化や三菱電機など大手の話は出たが、企業を支援することで、そこが活性化して税収が上がるようなことを何かやっているか。

I C Tの教育と言われたが、私が勤めていたところではI C T課を、各製造部、事業部に置いてやっているのだから、そういうものの教育はすごく良いことだ。ぜひトップを目指してやって頂きたい。

■市長 山が荒れているということと砂防ダムが埋まっていて安心して暮らせないということ。おっしゃる通りだ。

森林環境税は元々山の所有者が管理しきれなくなったところを国全体で管理していこうということで、公有地化を含めて市が代行して行うケースで、財源を充てて管理していくことになる。そもそも、森林をきちんと守っていくことこそが日本の国土全体の安全につながるという哲学の下で進められていると聞いている。森林環境税の制度そのものは、税は確か各世帯1人千円で、課税よりも先に交付金が下りてくる。来年から恵那市では3千ぐらい国から下りてくる。その中で森林の整備をしていく。

そもそもの考え方として、都市部と農村部や中山間地域、上流部という切り分けをすると、恵那市は都市部に対して人も出している、水も出している、緑も何もかも全部供給している。都市部は都市だけでは生きていけない。それは色々な資源を含めて田舎もしくは上流部があって日本の都市は成り立っている。相互にそれぞれが助け合わないといけないはずだ。そういう意味で、都市と農村、治山治水という言葉があるように、山を治め、川を治め、水を治めることこそが都市部全体の生活の安定にもつながる。そういった意味で



はもう少し所得の循環も含めて上流への手配、加配があっても良いということは、どこの市長も言っている。ただ、実際にはそんなにうまくいっておらず、交付税を含め国全体の制度ではまだ十分に恵那市が恵那市の山や地域を守るための十分な財源が手に入っているとは言い難い。過疎に苦しみ地域の皆さんが非常に苦しい状況に置かれている。これを何とか制度的には直したいが、きっとすぐに来るわけではないので、引き続き声を上げていきたいと考えている。

それから、商工関係で企業の支援という話があった。安城市と比べると大変小さい町なので、大きな会社がそれほどあるわけではない。製造出荷額も2千億あるかないかだ。少しでも個性を伸ばして強みのある会社を誘致したり育てたりしていこうということで、企業誘致、工業団地、本社機能の移転など色々な取り組みをしている。また色々な場面で具体的なアドバイスを頂く機会があればお願いしたい。

I C Tは、私の考えでは、条件の不利な地域、たとえば都会ではすぐに手に入るものが、私どもが恵那もしくは串原にいるがためにすぐ手に入らないことがたくさんある。そういうところを、いわゆるデバインド、マイナスの部分を補うものとしてのI C Tという考え方もあるし、ツールとしてのI C Tという考え方もあると思うので、どちらについてもきちんと伸ばして少しでも条件の不利をなくしていきたい。もしくは世界最先端のところと肩を並べたいと考えている。引き続き取り組んでいく。

#### 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。寄せられたご意見、ご提案はすぐに担当に検討させたり、出来ることから始めていく。この場で言えなかったことがあれば、堀議員や澤田会長、振興事務所長に伝えて頂きたい。住みやすい恵那市、串原づくりをしていきたい。

■司会 これで閉会する。

[ 閉 会 ]